



いわて・みやぎ・ふくしま 便り

2020年
3月19日発行

日本生協連
組合員活動G

No. 10

「いわて・みやぎ・ふくしま便り」No.10をお送りします。

東日本大震災の発生から9年が経ちました。引き続き、被災地の様子をお伝えしていきます。



震災を忘れない日の取り組み ～9年目の3月11日～



盛岡市のベルフ山岸にて。
募金活動と一緒にこ～ぶ委員会が復興
商品の販売も行いました。

いわて生協では、毎年3月11日を「震災を忘れない日」として、募金活動や復興商品の販売などに取り組んでいます。

今年も、内陸部のいわて生協各店でこ～ぶ委員会が中心となり、復興支援募金の呼びかけを行いました。募金に協力いただいた組合員からは、「あれから9年も経ったのに、まだ復興は終わっていないのですね」「支援が必要な人に届いてほしい」との声が寄せられました。

また、被災地で手作り品の制作・販売をしている団体の販売会も実施しました。奥州市のコープアテルイでは、大船渡市の団体「願

いのハーモニー」が販売し（左下写真）、「毎年、みなさんにたくさん利用していただき感謝です」とおっしゃっていました。

震災発生時刻の14：46には、来店者にも呼びかけて常勤者とともに店内で黙祷を捧げました。いわて生協各事業所でも、黙祷や募金に取り組みました。

震災から9年が経ち、復興は着実に進んでいますが、すべて完了したわけではありません。県内の仮設住宅には今も約500の方が暮らしています。産業の再生は、主力である漁業関連が漁獲量の減少が大きく、元に戻っていません。もともと過疎化も進行していましたが、この震災で岩手県沿岸部の人口は震災前と比較し14.6%も減少しています。心の復興やコミュニティづくり、なりわいづくりなどにはまだまだ支援が必要です。



帽子や袋もの手作り作品の販売会も実施



発災時刻には来店者も一緒に黙祷しました

東日本大震災から 10 年となる 2020 年度も引き続き、被災地・被災者に寄り添った支援活動を継続してまいります。引き続きのご協力をお願いいたします。



台風 19 号被害に対し、支援活動を行っています



みやぎ生協では、台風 19 号の被害を受けてみやぎ生協の産直「めぐみ野」産地である角田市・丸森町を中心に支援活動を行っています。

①炊き出しを行いました

2 月 8 日、在宅被災の方が多く五福谷地区の集会所（第七区区民会館）で初めて、他の地域の「めぐみ野」生産者のみなさんと理事・エリアリーダーなどが共同で炊き出しを行い、鉄板焼きやほたて汁など、約 190 食を召し上がっていただきました。

今回は、「めぐみ野」ほたて生産者の（株）山神のみなさんが青森から始発の新幹線で、ほたて持参で駆けつけてくださったほか、地元丸森町の「めぐみ野」豚生産者（有）大槻ファームのみなさんなどにもご協力いただきました。

集会所には、親子連れや家族で参加された方々が、開始前から大勢待たれていて「久しぶりにおいしいお肉を食べて、とてもうれしかった」「ここで炊き出ししてもらえてうれしい」など感謝の声が寄せられました。

②「めぐみ野」生産者支援活動を行いました

10 月 23 日から 1 月 26 日までに、計 21 回、職員を中心に理事やメンバーのべ 343 人が参加して、被災した JA みやぎ仙南の「めぐみ野」生産者を支援しました。

11 月から支援に入った「めぐみ野」ふるさと豚生産者の古川さんの豚舎は、上流の川が氾濫し 150 頭の豚たちが一瞬で流されました。多くの方の協力を得て 70 頭を回収、11 月から理事やメンバーで豚舎や農機具倉庫などの泥だし・片付け作業を行った結果、12 月に農場へ豚たちは里帰りを果たし、再開の目途が立ったとのこと。古川さんからは「紆余曲折を経て再開することができたのは、作業協力のみならず、元気を与え続けてくれた、みなさんのお力添えのおかげです」と感謝の言葉をいただきました。



多くの方が待っていただきました



活動に参加した生産者のみなさんと
みやぎ生協メンバー・職員



12 月の泥出し作業の様子



無事に豚舎に戻った豚たち



災害被災地を「買って応援」する取り組みを行いました



2016年の台風10号被害を受けた岩泉町や、熊本地震被災地の商品を「買って応援」する活動に取り組みました。

岩泉町で作られている「フルーツほおずき」商品や、熊本県西原村にある福祉施設「にしはらたんぽぽハウス」の製品の購入を宮城県内のこ〜ぷ委員会に呼びかけ、計2,163個、約96万円と大きな支援になりました。



こんな素敵な商品があります



第3回福島県環境創造シンポジウムに参加しました！



2月2日に福島県環境創造センター交流棟にて、シンポジウムが開催されました。主な内容は、県民向けの活動紹介展示とパネル討論「ふくしまウチ⇄ソト DISCUSSION」の二つでした。

コープふくしまでは、一般来場者を対象に「陰膳方式による放射性物質摂取量調査の現状」をパネル展示し情報を発信しました。また展示された団体の方々と交流もしました。

パネル討論では、福島に住んでいる人の「内から見た福島」と県外からの「外から見た福島」との意見交換が行われ、長野県内と福島県内の高校生がライブ中継でそれぞれが抱く想いを語りました。震災から9年を迎え、乖離が未だ残っている状況を実感しました。「想い」を伝えるときの相手との距離感や言葉の難しさなど其々の立場からの捉える討論会になりました。



コープふくしまによるパネル展示の様子



多くの方にお立ち寄りいただきました



子ども保養プロジェクト（コヨット！）活動報告

～山形県 天童温泉 湯坊いちらく～

開催日 2020/1/25（土）～26（日）

保養先 山形県 天童温泉 湯坊いちらく

参加者 10家族 子ども16名、大人23名



1日目 天童市 わくわくランド

郡山・福島駅を定刻通り出発することができました。最近、インフルエンザやコロナウイルスが流行しているため、心配なお母さん達はもちろん、マスクを着用している参加者が多かったです。スタッフも同様に、感染症対策としてマスク着用する旨を説明しました。



初めての缶ぽっくり♪

古関SAに到着し、一旦トイレ休憩をした際の気温は4℃…この時期としては、温かかったです。今回、雪遊びを予定していましたが、暖冬の影響で十分な雪がなく、残念ながら断念しました。

到着したわくわくランドでは、恒例のパン食い競争や昨年末から始めたお菓子釣りゲーム、缶ぽっくり体験やボール遊びを行い、子ども達は学生ボランティアと元気いっぱい、楽しく遊んでいました。

到着したわくわくランドでは、恒例のパン食い競争や昨年末から始めたお菓子釣りゲーム、缶ぽっくり体験やボール遊びを行い、子ども達は学生ボランティアと元気いっぱい、楽しく遊んでいました。

2日目 山形市しろにしセンター「餅つき大会」

バスで山形市しろにしセンターに到着すると、JA産直センターの餅つき隊メンバーが6升（！）のもち米を蒸して準備をしてくれていました。

手始めに「かつてJA青年団だった方々」が餅をついてくださり、出来上がった餅を試食してから、本格的に餅つきが始まりました。1回目の餅つきはますますな出来でしたが、2回目は参加したお父さん達、スタッフ、子ども達に頑張ってもらい、一回目より滑らかなおいしい餅をつくことが出来ました。そのため、つきたての餅をめぐる争奪戦が繰り広げられました。

ついた餅は、納豆餅・醤油もち・きな粉餅・あんこ餅の4つの味付けで楽しみました。子ども達に一番人気の餅は、しょうゆ餅でした。他にも共立社から、りんごやみかんの差し入れも頂きました。



餅つきのプロによる実演



子ども達も頑張りました



発行

日本生協連 社会・地域活動推進部 組合員活動グループ
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

百瀬